

【文教厚生委員会】

10月17日から19日の行程で、対馬市および壱岐市において行政調査を実施しました。

【対馬市】

①対馬博物館建設に至る経緯と維持管理状況について

②峰総合運動公園陸上競技場の現況について

対馬博物館については、平成18年3月から博物館整備について検討をしてきた。平成24年3月に有識者に



【北海道白糠町】



【福岡県新宮町】

よって基本計画が策定され、令和4年4月30日に「対馬博物館」として開館した。博物館は、対馬を代表する歴史文化遺産の保存とその価値を明らかにし活用を図るという役割を担っている。維持管理費については、県が3割、市が7割の負担となっている。県と市が博物館と研究センターを一体的に整備する効果として、資料や調査・研究成果を博物館での展示という形で反映したり、収蔵庫や機械室などを共有し、整備や運営コストを抑えることが挙げられる。

峰総合運動公園陸上競技場は、対馬市のほぼ真ん中に位置している。昭和56年に1周300メートルの土トラックとして完成し、陸上関係者の要望により、平成28年度に市内初となる全天候型陸上競技場に改修され、陸上大会の主会場として利用されている。

【壱岐市】

一支国博物館建設に至る経緯と維持管理状況について

壱岐市は、平成14年に埋蔵文化財センター設置を県知事に要望し、翌年に県知事が同センター建設を表明した。平成17年に整備基本計画が策定され、平成22年3月に壱岐市立一支国博物館が開館した。

同博物館は、長崎県埋蔵文化財センターと展示公開施設である博物館が一体となった複合施設である。維

持管理費については、施設管理は県が6・5割、市が3・5割、博物館事業は市が10割負担となっている。同博物館は、長崎県埋蔵文化財センターの併設により、補助金等で大きな利点があり、市の負担が抑えられている。

本市においても鷹島神崎遺跡保存管理計画に則り、博物館機能を備えた施設の整備に向けて取り組んでいくこととしている。対馬・一支国両博物館は、財政面や管理運営状況について、本市としても参考にするべき事項が多くあった。陸上競技場については、次世代の競技者のために行政と陸上関係者の思いが一致して改修に至ったと聞いて、本市もスポーツ施設の見直しや改修が早期に必要と思う。このことにより各競技のレベル向上につながり、次世代にとって大きな財産になると思う。



【対馬市 峰総合運動公園陸上競技場】

【産業経済委員会】

9月28日から30日の行程で、青森県中泊町および青森県つがる市へ、再生可能エネルギーについての行政調査を行いました。

調査概要として、中泊町における陸上風力発電事業では、中泊風力発電事業3600kw×2基、十三湖風力発電事業2300kw×15基+蓄電設備、中里風力発電事業3600kw×13基運転されておられ、持続可能な地域づくりとして、中泊町と中里風力発電の事業者である日本風力エネルギー株式会社は、令和2年2月に「地域再生のための寄附に関する協定」を締結されており、この協定により風力発電事業の売電収入の一部が企業版ふるさと納税として寄附されています。寄附の期間は、令和3年度から20年間で、寄附額は稼働率に応じて1年あたり3千万円から



【壱岐市 一支国博物館】